

第 6 回  
伊万里地区新高校  
設置準備委員会  
(資料)

平成 28 年 8 月 30 日  
佐賀県教育委員会

## 目次

	頁
資料 1	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (第1次)新高校設置準備委員会報告まとめ・・・・・・・・・・・・ 1
資料 2	新高校の学科構成について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
資料 3	新高校の校地について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
資料 4	新高校設置準備委員会設置要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
資料 5	伊万里地区新高校設置に向けた検討体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
資料 6	伊万里地区新高校設置準備委員会委員構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

## 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第 1 次）

## 第 6 回新高校設置準備委員会報告まとめ

## 1 開催日時・場所等

地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
鹿島地区 ・ 鹿島高校 ・ 鹿島実業高校	平成 28 年 5 月 16 日（月） 15 時～16 時 30 分 鹿島高校 同窓会館	学校関係委員 4 人 地域関係委員 10 人 県教育委員会関係委員 8 人
杵島地区 ・ 白石高校 ・ 杵島商業高校	平成 28 年 5 月 18 日（水） 10 時～11 時 15 分 白石高校 同窓会館	学校関係委員 4 人 地域関係委員 11 人 県教育委員会関係委員 8 人
伊万里地区（第 5 回） ・ 伊万里農林高校 ・ 伊万里商業高校	平成 28 年 5 月 20 日（金） 10 時～11 時 30 分 伊万里農林高校 視聴覚室	学校関係委員 4 人 地域関係委員 7 人 県教育委員会関係委員 8 人
嬉野地区 ・ 塩田工業高校 ・ 嬉野高校	平成 28 年 5 月 30 日（月） 10 時 30 分～12 時 塩田工業高校 同窓会館	学校関係委員 4 人 地域関係委員 10 人 県教育委員会関係委員 8 人
唐津地区 ・ 巖木高校	平成 28 年 5 月 31 日（火） 15 時 00 分～16 時 10 分 巖木高校 同窓会館	学校関係委員 3 人 地域関係委員 5 人 県教育委員会関係委員 9 人

伊万里地区については第 5 回設置準備委員会。

## 2 主な意見等

地区	主な意見等
鹿島地区	<p>生徒配置について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちや OB にとっては、鹿島高校と鹿島実業高校は昔から姉妹校という意識があり、一つ屋根の下で学ぶということでの一体感に拘る必要はないのではないか。</li> <li>・ 校名・校歌等を統一することで、学校の一体感の醸成は十分可能ではないか。</li> <li>・ 平成 30 年度からの急激な体制の変化に対する職員の不安も大きいため、再編当初は現状の生徒配置とし、生徒・職員ともに少しずつ一体感を高めながら、平成 32 年度以降の生徒配置については少し時間をかけて検討を行っていききたい。</li> </ul> <p>（事務局案＜普通科を鹿島校舎、専門学科を鹿島実業校舎に配置＞のとおり承認）</p> <p>教育課程・校時について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位数（授業時間数）や校時が両校舎で揃っていなければ、部活動の開始時間がずれるので、その点についても、今後の検討課題として欲しい。</li> </ul>

地区	主な意見等
	<p>校名・校歌・制服等の検討方法について</p> <p>校名検討方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大人の意見だけではなく、子どもたちの意見も反映される場面もあっていいのではないか。</li> <li>・ 設置準備委員会の委員の意見を取り入れるなら、一旦公募をして、その中から選ぶという方法が良い。</li> </ul> <p>(校名検討方法は「公募」とすることで委員了承)</p> <p>(「校名検討における基本的な考え方」及び「校内検討委員会構成委員」については事務局案のとおり承認)</p> <p>校歌・校章・制服等の検討について</p> <p>(校内検討委員会を中心に検討をするという事で委員了承)</p>
杵島地区	<p>校名・校歌・制服等の検討方法について</p> <p>校名検討方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 透明性や公平性、アピール性、全国的な流れ等を考えて、公募でよいと思う。</li> <li>・ 新高校ができるという認知が得られ、地域全体の方が一緒に新高校のことを考えるという意味では、公募の方がよい。</li> </ul> <p>(校名検討方法は「公募」とすることで委員了承)</p> <p>(「校名検討における基本的な考え方」及び「校内検討委員会構成委員」については事務局案のとおり承認)</p> <p>校歌・校章・制服等の検討について</p> <p>(校内検討委員会を中心に検討をするという事で委員了承)</p>
伊万里地区	<p>新高校の学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学科の検討については、お互いの学校同士で綱引きをするのではなく、PTA、同窓会、先生方で、どの学科やコースがいいのかを議論させて頂きたい。その際は、農業と商業の融合学科も検討しなければならないと思う。</li> <li>・ 5学級規模の教員数で6学級の運営をすることはかなり難しいだろう。</li> </ul> <p>新高校の校地について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開校まで残りあと3年で、校舎、実習地等を整備するのは時間的に厳しい。今の施設を使いながら、平成31年は校舎制で開校としないと、準備が伴わない。</li> <li>・ 普通教科の担当教員の移動については、移動をしなくて済むようにカリキュラムを調整すればよい。</li> </ul>

地区	主な意見等
嬉野地区	<p>平成30年度（開校時）の学級、学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開校時から新しい形でのスタートであるという方が子供たちにも分かりやすい。</li> </ul> <p>（塩田校舎...機械科、電気科、建築科 各40人 計120人3学級 嬉野校舎...3系列（情報ビジネス系列、観光・流通系列、社会福祉系列） 計80人2学級で委員了承）</p> <p>新高校の校名の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな所から公募した方が中立性があると思う。多くの人が関心を持つ意味でもいいのではと思う。</li> <li>・ 校名を募集する時には、名前を挙げた理由というのを付けるようにした方が良い。</li> </ul> <p>（校名検討方法は「公募」とすることで委員了承） （「校名検討における基本的な考え方」及び「校内検討委員会構成委員」については事務局案のとおり承認）</p> <p>新高校の新校章、新校歌、新制服の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制服に関連して、保護者からは県立高校も入学時にまとまったお金がかかるという話をよく聞く。現状よりもあまり高くないような金額にしてほしい。</li> </ul> <p>（校内検討委員会を中心に検討をするという事で委員了承）</p>
唐津地区	<p>教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中途の進路変更を考慮して、1年次に必修科目を履修させたいので、数学と英語については、基礎科目を履修した後、必修科目である数学、コミュニケーション英語を履修できるようにしたい。</li> </ul> <p>校名・校歌・制服等の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校名を変える必要はない。伝統は守っていくべきである。</li> <li>・ 校章については、デザインはもう少しと思うが、変える必要はない。</li> <li>・ 制服については、先生方の指導のしやすい方向で何かあれば検討しても良いが、特に保護者の方からの意見はない。</li> </ul> <p>（校名、校歌、校章については、現行通りとすることで委員了承）</p>

## 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）

### 第7回新高校設置準備委員会報告まとめ

#### 1 開催日時・場所等

地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
鹿島地区 ・ 鹿島高校 ・ 鹿島実業高校	平成28年 7月26日（火） 15時～16時30分 鹿島高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 10人 県教育委員会関係委員 8人
杵島地区 ・ 白石高校 ・ 杵島商業高校	平成28年 7月27日（水） 10時～11時30分 白石高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 11人 県教育委員会関係委員 8人
嬉野地区 ・ 塩田工業高校 ・ 嬉野高校	平成28年 7月27日（水） 15時～16時30分 塩田工業高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 10人 県教育委員会関係委員 8人

唐津地区については、第7回設置準備委員会を8月31日（水）に実施予定。

#### 2 主な意見等

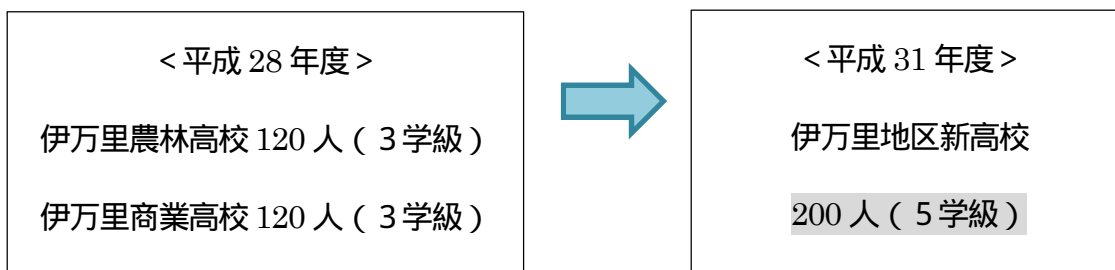
地区	主な意見等
鹿島地区	<p>教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の配置について、教科の教員数を削って養護教諭を賄わなければならない状況については、是非次回の委員会でその対応についての提案をお願いしたい。</li> </ul> <p>校時表について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい校時は、いつから全校で導入するのか。</li> </ul> <p>部活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動のチーム編成についてはどうなるのか。</li> </ul> <p>校名募集状況報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校名検討委員会で校名候補の絞り込みをするという事だが、その結果は公表するのか。</li> </ul>
杵島地区	<p>教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普通科と商業科で卒業単位が異なるが問題ないのか。</li> <li>・ 職員配置については、管理職と養護教諭の各校舎への配置が不可欠であり、また、教育の充実のためには1人でも教諭が多い方が良い。</li> </ul> <p>移動手段について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動や学校行事における生徒の移動手段として、バスは準備してもらえるのか。</li> </ul> <p>学校目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標が多すぎて軸が定まらないため、整理が必要である。</li> </ul>

地区	主な意見等
	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在想定している職員配置でカリキュラムが実施できるのか、部活動が維持できるのか等のシミュレーションが必要ではないか。</li> </ul>
嬉野地区	<p>教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例えば「総合的な学習の時間」や「産業社会と人間」を共通科目としたプログラムを考えても良いと思う。</li> <li>・ 職員配置について、特に養護教諭は是非両校舎に配置をしていただきたい。</li> </ul> <p>部活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動での移動は、貸切バスや公共のバスを利用しなければなかなか難しいと思う。</li> <li>・ 中学生が高校を選ぶときに、部活動というのは非常に大きなウェイトを占めている。どこで活動をするかというのは、保護者の送迎にも影響してくる。試算をして現実的に考えてほしい。</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新高校に関することについては、在校生にもしっかりと説明してほしい。</li> <li>・ 今までどおり塩田校舎は学年制、嬉野校舎は単位制で行うという理解でよいか、検討をしてもらいたい。</li> </ul>

## 1 平成 28 年度現在の学科の状況

学校	大学科	小学科	募集定員 (人・学級)	備考
伊万里農林高校	農業科	生物生産科	40人・1学級	2年次より 「植物コース」「動物コース」
		食品化学科	40人・1学級	
		森林工学科	40人・1学級	2年次より 「土木コース」「林業コース」
伊万里商業高校	商業科	商業科	80人・2学級	
		情報処理科	40人・1学級	

## 2 募集定員の見込



## 3 新高校の学科構成 (パターン案) 1 学級は 40 人

## パターン A

## 農業系学科を 1 学級減じた場合

【農業科】(2 学級) 80 人  
農林資源科 (仮) 2 学級

- ・植物コース
- ・動物コース
- ・食品コース
- ・環境コース

コース選択は 2 年次から行う。

【商業科】(3 学級) 120 人  
商業科 2 学級  
情報処理科 1 学級

## &lt;特徴&gt;

- ・ 農業科は小学科が 1 学科でコース制となる。
- ・ 商業科は現状と同じ学科、学級構成である。
- ・ 職員定数面では、農業科の小学科数減のため、他のパターンと比較した場合、教員数が一番多く減ることになる。  
「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に準じた場合。



## パターンB

### 商業系学科を1学級減じた場合

【農業科】(3学級) 120人

生物生産科 1学級

食品化学科 1学級

森林工学科 1学級

【商業科】(2学級) 80人

商業科 1学級

情報処理科 1学級

#### <特徴>

- ・ 農業科は現状と同じ学科、学級構成である。
- ・ 商業科は情報処理科を維持し、商業科(小学科)で1学級を減じる。
- ・ 現在の学科をすべて残すことができる。
- ・ 新高校としての特色をどのように出していくのか(農業系学科と商業系学科の連携等)が課題となる。

## パターンC

### 新学科を設置した場合

【農業科】(3学級) 120人

生物生産科 1学級

森林工学科 1学級

《新学科》 1学級

【商業科】(2学級) 80人

商業科 1学級

情報処理科 1学級

#### 新学科(農業系)

現在の食品化学科をベースとし、農業と商業のそれぞれの専門科目を学び、6次産業化に対応した学科とする。

#### <特徴>

- ・ 農業科と商業科をそれぞれ1学級減じ、農業系の新学科を設置する。
- ・ 新高校としての特色が出しやすい。
- ・ 新学科の特色をどのように出していくのか(カリキュラム編成等)が課題となる。

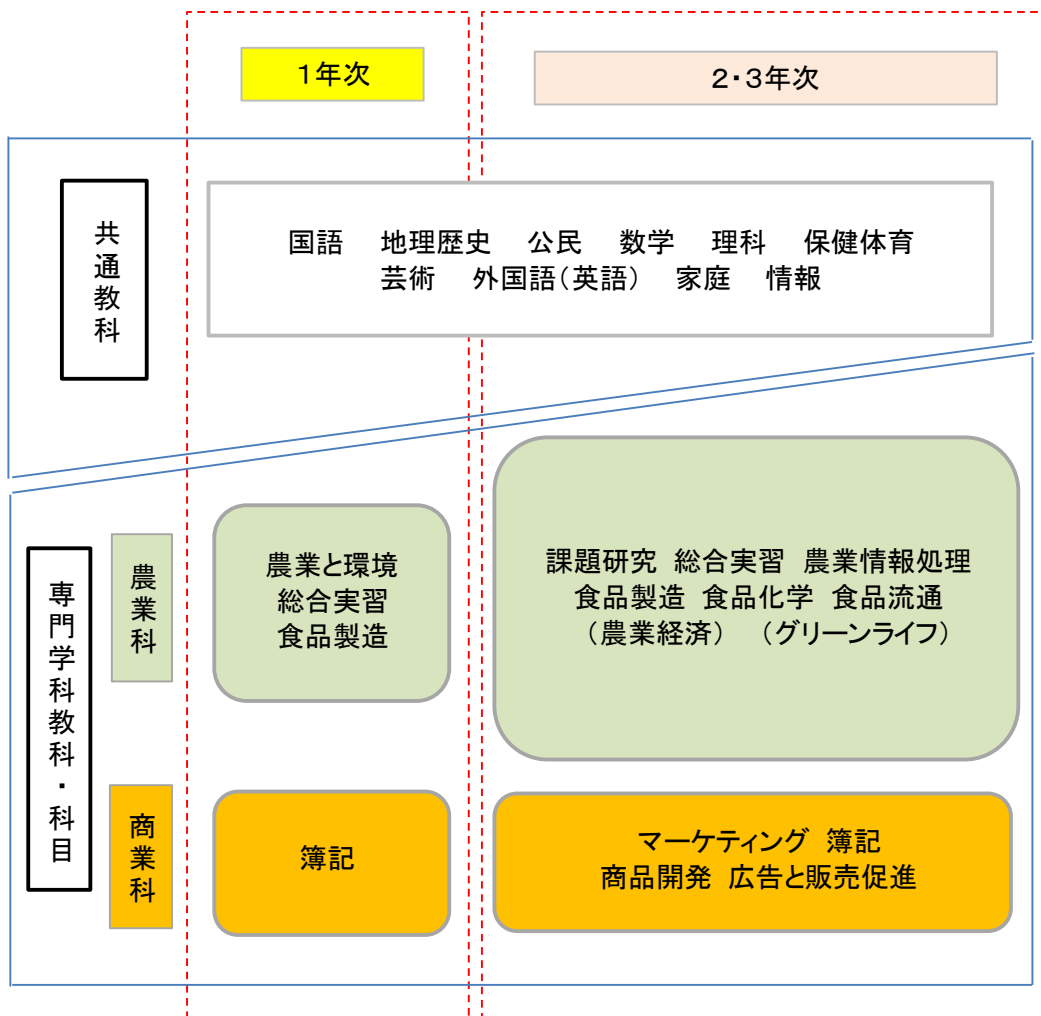
1 新学科のイメージ

(1)新学科のコンセプト

時代の潮流である6次産業化に対応し、農産物の生産、加工、流通、販売を一貫してマネジメントするための基礎を学び、将来、伊万里市、佐賀県の産業界のリーダーとなるような人材を育成する学科。

(2)カリキュラム例のイメージ

(現在の伊万里農林高校食品化学科をベースとした場合)



※情報は農業情報処理で代替  
 ※農業科の科目は25単位以上が必要

(3)他県の事例

福島県立岩瀬農業高等学校

内容は岩瀬農業高校ホームページ等による。

沿革

M41(1908) 西白河郡農学校として創立。

S23(1948) 学制改革に伴い、福島県立岩瀬農業高等学校となる。

学科と募集定員（平成28年度）【計240人 6学級/学年】

生物生産科 40人 園芸科学科 40人 環境工学科 40人 食品科学科 40人

ヒューマンサービス科 40人 アグリビジネス科 40人

アグリビジネス科は生産情報科をH28に学科改編

アグリビジネス科の特色

農畜産物の生産から食品の加工・製造・品質管理及び食品衛生に関する知識と技術を習得させ、農業の6次産業化やコンピュータを活用した流通活動に応用できる能力と態度を育てるとともに、地域社会の進展に対応できる産業人を育成する。

アグリビジネス科 教育課程表

平成28年度 教育課程単位計画表  
福島県立岩瀬農業高等学校 全日制の課程 アグリビジネス科

入学年度		平成28年入学				
教科	学年・コース 科目	1学年	2学年		3学年	
			生産情報	食品流通	生産情報	食品流通
国語	国語総合	4				
	現代文B		3		3	
地理	世界史A				2	
	地理A	2				
公民	現代社会		2			
数学	数学活用				2	
	数学I	3				
	数学A		2			
理科	科学と人間生活	2				
	化学基礎		2			
	生物基礎				2	
保健	体育	2	2		3	
芸術	音楽I	1	1			
	美術I	☆2				
英語	コミュニケーション英語I	3				
	コミュニケーション英語II		2		2	
家庭	家庭総合	2	2			
情報	社会と情報	[2]				
普通科目計		21	16	16	14	14
農業	農業と環境	4				
	課題研究		1		3	
	総合実習	2(1)	2(1)		2(1)	
	農業情報処理	2				
	作物					■2
	野菜			●2		
	食品流通		2		2	
	食品製造					●2
	農業経済			◆2		
	生物活用				■2	
グリーンライフ					◆2	
商業	農業情報処理演習		2			
	ビジネス基礎		2			
	マーケティング				2	
	商品開発		●2		●2	
	電子商取引		◆2			
	広告と販売促進				◆2	
専門科目計		8(1)	13(1)	13(1)	15(1)	15(1)
総合的な学習の時間			[1]		[2]	
小計		29(1)	29(1)		29(1)	
特活(ホームルーム活動)		1	1		1	
合計		30(1)	30(1)		30(1)	
組編成		1	1		1	

※履修単位左に付す記号は選択科目、( )内数字は総合実習の時間割外時数を表す。(外数)  
 ※総合的な学習の時間は「課題研究」、社会と情報は「農業情報処理」により代替する。  
 ※■・●・◆はコース別同時展開科目 ☆は選択科目

沿革

- M37(1904) 徳島県立農業学校として創立。
- S23(1948) 徳島県徳島農業高等学校となる。
- S24(1949) 徳島県城西高等学校となる。
- S31(1956) 徳島県立徳島農業高等学校と改称。
- H 9(1997) 徳島県立城西高等学校と改称。

学科と募集定員 (平成 28 年度)【計 170 人 5 学級 / 学年】

生物技術科 25 人 植物活用科 25 人 食品科学科 25 人 総合学科 95 人  
 平成 29 年度からアグリビジネス科を設置。  
 神山分校(生活科 10 人、造園土木科 20 人)あり。

アグリビジネス科について(城西高校パンフレットによる)

6次産業化って何ですか？



農産物の生産  
(第1次産業)

×

食品加工・製造  
(第2次産業)

×

流通・販売・情報  
(第3次産業)

= 6次産業化

農・工・商3つの部門の連携を強化し、高い付加価値  
 や新たな農の関連ビジネスを創出していくしくみ

2年生から分かれて学ぶ3専攻制って何ですか？

1年生=生産・加工・商品開発・販売に関する基礎的学習を行います。  
 2・3年生=「課題研究」「総合実習」において、3つの専攻に分かれ、より  
 専門的学習を行います。

● 食クリエイト

食品加工等の技術で  
とくしまの食材を生かした  
新商品の創造

● 環境システム

環境制御技術等の新しい  
農業生産システムの創造

● 販売プロデュース

ビジネスマナーを身につけ  
新ビジネスモデルを創造



アグリビジネス科の新しい施設は、どのような施設ですか？





人工光型植物工場  
環境制御システム



ミーティングルーム  
(商品開発)



食品加工実習室  
(試作)



販売所  
POSシステム

(写真はイメージです)

卒業後、より専門的知識・技能を高めたいのですが？

H28年度、徳島大学生物資源産業学部が設置され、専門高校を対象とした  
 「地方創生型の推薦入試・地域枠」により、本校から1名進学しました。  
 また、県立農業大学校に進学し、専門性を高めたり、卒業後、四年制大学の  
 農業系学部3年次に編入学できる制度もあります。



平成29年4月開設

徳島県立城西高等学校

アグリビジネス科

Agribusiness Course

**農業**  
農産物の生産  
農産物の加工・製造

**工業**  
植物工場での活用  
自然エネルギーの活用

**商業**  
マーケティング活動  
商品の企画・開発

めざす生徒像

- 6次産業化を实践できる起業家の育成
- 新しい生産システムを創造できる人材の育成
- ビジネス感覚を持った人材の育成
- 地域発展に貢献できる人材の育成



生産に関する知識・技術習得



6次産業化商品プロデュース



起業家の育成  
地方創生の担い手育成



6次産業化実践教育  
地域づくりのリーダー育成

具体的な取組



県内農産物や伝統農業に関する基礎的学習の実践

環境制御型農業を自給した植物工場の実践

商品開発、販売所「まよかせ」第2ステージの販売実践

大学や農業法人と連携した課題解決型学習の実践

1年次  
農作物の生産から加工・流通までの基礎的な知識と技術を習得する

栽培技術の習得

市場調査  
販売促進  
農業と環境  
総合実習  
農業情報処理  
植物バイオテクノロジー  
植物工場  
環境制御

2年次  
3つの専攻に分かれより専門的な学習を通して実践力を身につける

3専攻制

経営マインド  
起業家精神  
課題研究  
総合実習  
農業起業実践  
商品開発  
後進ならではのプラント創造

3年次  
地域を理解し地域社会の充実に貢献できる「農業ビジネスのコーディネーター」を目指す

進路実現

食クリエイト・環境システム・販売プロデュース

めざす進学  
4年制大学、農業大学校、専門学校など  
H28徳島大学、生物資源産学部合格

めざす就職  
地方公務員、農業関連企業、起業家、農業生産法人 など

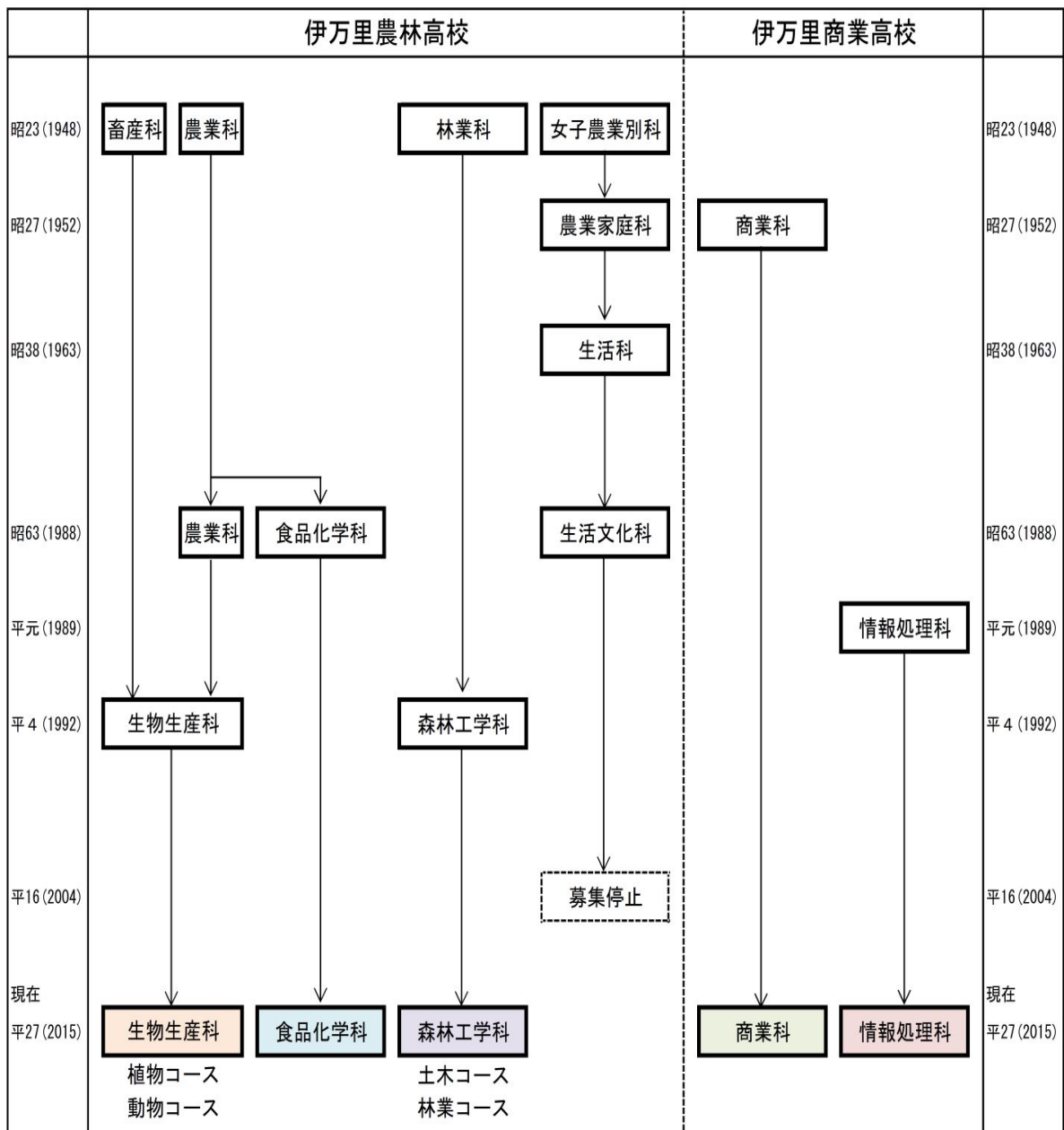
めざす資格  
食の6次産業化プロデューサー  
アグリマイスター  
食品衛生責任者養成講習  
日本農業技術検定  
FFJ検定  
危険物取扱者資格  
商業経済検定  
第二種電気工事士 など

大学(徳島大学生物資源産学部等)、県立農業大学校、農業生産法人などとの連携

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
1年	国語総合	現代文B	現代文A	現代文B	現代文A	現代文B	数学I	数学I	数学I	科学と人間生活	体育	体育	保健	基礎英語	音楽I	美術I	書道I	英語I	コミュニケーション	家庭基礎	農業と環境	総合実習	総合実習	総合実習	農業情報処理	植物バイオテクノロジー	植物バイオテクノロジー	植物バイオテクノロジー	植物バイオテクノロジー	植物バイオテクノロジー		
	現代文B	現代文A	現代文B	現代文A	現代文B	現代文A	数学I	数学I	数学I	科学と人間生活	体育	体育	保健	基礎英語	音楽I	美術I	書道I	英語I	コミュニケーション	家庭基礎	農業と環境	総合実習	総合実習	総合実習	農業情報処理	植物バイオテクノロジー	植物バイオテクノロジー	植物バイオテクノロジー	植物バイオテクノロジー	植物バイオテクノロジー		
2年	現代文B	現代文A	現代文B	現代文A	現代文B	現代文A	化学基礎	化学基礎	化学基礎	化学基礎	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	
	現代文B	現代文A	現代文B	現代文A	現代文B	現代文A	化学基礎	化学基礎	化学基礎	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I	基礎数学I
3年	現代文B	現代文A	現代文B	現代文A	現代文B	現代文A	体育	体育	体育	体育	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II
	現代文B	現代文A	現代文B	現代文A	現代文B	現代文A	体育	体育	体育	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II	基礎数学II

農業科目修得単位数27単位～31単位、工業科目修得単位数4単位～6単位、商業科目修得単位数4単位

2 これまでの学科の変遷（学制改革以降）



3 伊万里農林高校と伊万里商業高校の現在（平成28年度）の教育課程表

伊万里農林高校（生物生産科）

全日制 生物生産科

佐賀県立伊万里農林高等学校

教科科目		入学年度		平成28年度入学（第1学年）					
		標準単位数	学年 コース	2年		3年		合計	
				1年	植物コース	動物コース	植物コース	動物コース	植物コース
国語	国語総合	4	4						4
	国語表現	3					★(2)		0・2
	現代文B	4		2			2		4
地理	世界史A	2		2					2
	日本史A	2					②		0・2
歴史	地理A	2					②		0・2
	現代社会	2	2						2
公民	政治・経済	2					★[2]		0・2
	数学I	3	3	2					5
数学	数学A	2					2		2
	科学と人間生活	2	2						2
理科	生物基礎	2					2		2
	体育	7～8	2	3			2		7
保健	保健	2	1	1					2
	音楽I	2	②						0・2
芸術	美術I	2	②						0・2
	書道I	2	②						0・2
	コミュニケーション基礎I	3	3						3
外国語	コミュニケーション基礎II	4		★(2)			★[3]		0・5
	英語会話	2		☆(2)					0・2
家庭	家庭総合	4	2	2					4
情報	社会と情報	2							0
各学科に共通する教科小計			21	14			17・15・10		52・50・45
農業	農業と環境	2～6	4						4
	課題研究	2～6					2		2
	総合実習	2～12	3	3			1		7
	農業情報処理	2～6	2	2					4
	作物	2～8		2			☆[3]		2・5
	野菜	2～8		2			[6]		2・8
	果樹	2～8		2			[6]		2・8
	草花	2～8		2			[6]		2・8
	畜産	2～8			4			6	10
	農業経営	2～6					2		2
	農業機械	2～6					☆[2]		0・2
	植物バイオテクノロジー	2～6		2			2	4	
	動物バイオテクノロジー	2～6						2	2
	グリーンライフ	2～6					☆(2)		0・2
動物科学	2～10			4				4	
家庭	フードデザイン	2～6					[2]	0・2	
主として専門学科において開設される教科小計			9	15			13・15・20		37・39・44
校外学習活動	就業体験 知識及び技能審査	1～20							
総合的な学習の時間				1					1
履修単位の計(校外学習活動を除く)			30	30			30		90
特別活動	ホームルーム活動		1	1			1		3
	生徒会活動 学校行事		別途計画						

備考・○、( )、[ ]、【 】は1科目選択。

- ・ 共通教科選択者は★を選択し、専門教科選択者は☆を選択する。ただし、3年次の「フードデザイン」については、共通教科選択者、専門教科選択者に関係なく選択することができる。
- ・ 総合実習は、1年次野菜、果樹、草花、畜産の4パート。2年次は植物コース（野菜・果樹・草花）、動物コース（畜産）の4パート。
- ・ 総合実習の各学年1単位は時間割外総合実習で長期休業中に実施する。内容は時間割内総合実習に準ずる。
- ・ 科目「社会と情報」2単位は1年次の「農業情報処理」2単位で代替する。
- ・ 「総合的な学習の時間」3単位のうち、2単位を「課題研究」で代替する。

伊万里農林高校（食品化学科）

全日制 食品化学科

佐賀県立伊万里農林高等学校

教科科目		標準 単位数	学年	平成 28 年度 入 学（第 1 学 年）			
				1 年	2 年	3 年	合 計
国 語	国 語 総 合	4	4				4
	国 語 表 現	3				★(2)	0・2
	現 代 文 B	4			2	2	4
地 理	世 界 史 A	2			2		2
	日 本 史 A	2				②	0・2
歴 史	地 理 A	2				②	0・2
	現 代 社 会	2	2				2
公 民	政 治 ・ 経 済	2				★②	0・2
	数 学 I	3	3		2		5
数 学	数 学 A	2				2	2
	科 学 と 人 間 生 活	2			2		2
理 科	化 学 基 礎	2	2				2
	生 物 基 礎	2				2	2
保 健 育	体 育	7～8	2		3	2	7
	保 健	2	1		1		2
芸 術	音 楽 I	2	②				0・2
	美 術 I	2	②				0・2
	書 道 I	2	②				0・2
外 国 語	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 類 I	3	3				3
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 類 II	4			★(2)	★[3]	0・5
	英 語 会 話	2			☆(2)		0・2
家 庭 情 報	家 庭 総 合	4	2		2		4
	社 会 と 情 報	2					0
各 学 科 に 共 通 す る 教 科 小 計			21	16		17・15・10	54・52・47
農 業	農 業 と 環 境	2～6	2				2
	課 題 研 究	2～6				2	2
	総 合 実 習	2～12	3	3		3	9
	農 業 情 報 処 理	2～6	2	2		☆(2)	4・6
	食 品 製 造	2～8	2	2		2	6
	食 品 化 学	2～8			2	3	5
	微 生 物 利 用	2～6			2	3	5
	食 品 流 通	2～6			2	☆②	2・4
家 庭	食 品 衛 生 学	2～6				★[3]	0・3
	フ ォ ー ド デ ザ イ ン	2～6				②	0・2
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 教 科 小 計			9	13		13・15・20	35・37・42
校 外 学 習 活 動	就 業 体 験	1～20					
	知 識 及 び 技 能 審 査						
総 合 的 な 学 習 の 時 間				1			1
履 修 単 位 の 計 (校 外 学 習 活 動 を 除 く)			30	30		30	90
特 別 活 動	ホ ー ム ル ー ム 活 動		1	1		1	3
	生 徒 会 活 動		別 途 計 画				
	学 校 行 事		別 途 計 画				

備考・○、( )、[ ]、□は1科目選択。

- ・ 共通教科選択者は★を選択し、専門教科選択者は☆を選択する。ただし、3年次□の「フードデザイン」については、共通教科選択者、専門教科選択者に関係なく選択することができる。
- ・ 総合実習は、1年次は農産加工。2年次は農産加工、応用微生物、食品化学の3パート。3年次は農産加工、畜産加工、応用微生物、食品化学の4パート。
- ・ 総合実習の各学年1単位は時間割外総合実習で放課後や長期休業中に実施する。内容は時間割内総合実習に準ずる。
- ・ 科目「社会と情報」2単位は1年次の「農業情報処理」2単位で代替する。
- ・ 「総合的な学習の時間」3単位のうち、2単位を「課題研究」で代替する。



伊万里農林高校（森林工学科）

全日制 森林工学科

佐賀県立伊万里農林高等学校

教科科目		入学年度		平成 28 年度 入学（第 1 学年）						
		学年		1 年	2 年		3 年		合 計	
		標準	単位数		コース	土木コース	林業コース	土木コース	林業コース	土木コース
国 語	国 語 総 合	4	4							4
	国 語 表 現	3					★(2)			0・2
地 理	現 代 文 B	4			2		2			4
	世 界 史 A	2			2					2
歴 史	日 本 史 A	2					②			0・2
	地 理 A	2					②			0・2
公 民	現 代 社 会	2	2							2
	政 治 ・ 経 済	2					★[2]			0・2
数 学	数 学 I	3	3		2					5
	数 学 II	4					★[3]			0・3
理 科	数 学 A	2			★[2]		☆(2)			2
	科 学 と 人 間 生 活	2	2							2
保 健 育	生 物 基 礎	2					2			2
	体 育	7～8	2		3		2			7
芸 術	保 健	2	1		1					2
	音 楽 I	2	②							0・2
外 国 語	美 術 I	2	②							0・2
	書 道 I	2	②							0・2
家 庭 情 報	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 英 語 I	3	3							3
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 英 語 II	4			★(2)		★(2)			0・4
家 庭 情 報	英 語 会 話	2			☆(2)					0・2
	家 庭 総 合	4	2		2					4
各 学 科 に 共 通 す る 教 科 小 計			21		16・14		17・15・10			54・52・45
農 業	農 業 と 環 境	2～6	2							2
	課 題 研 究	2～6					2			2
	総 合 実 習	2～12	3		5		1			9
	農 業 情 報 処 理	2～6	2		☆[2]		☆[2]			2・4・6
	森 林 科 学	2～8				2		5		7
	森 林 経 営	2～8				2		2		4
	林 産 物 利 用	2～8				2		3		5
	農 業 土 木 設 計	2～8			2		5			7
	農 業 土 木 施 工	2～6			2		3			5
	造 園 技 術	2～8						☆(2)		0・2
	測 量	2～8	2		2			☆[3]		4・7
家 庭 情 報	水 循 環	2～6			2		2		4	
家 庭 情 報	フ ォ ー ド デ ザ イ ン	2～6					②		0・2	
主 として 専 門 学 科 において 開 設 さ れ る 教 科 小 計			9		13・15		13・15・20			35・37・44
校 外 学 習 活 動	就 業 体 験	1～20								
	知 識 及 び 技 能 審 査									
総 合 的 な 学 習 の 時 間					1					1
履 修 単 位 の 計 (校 外 学 習 活 動 を 除 く)			30		30		30			90
特 別 活 動	ホ ー ム ル ー ム 活 動		1		1		1			3
	生 徒 会 活 動		別 途 計 画							
	学 校 行 事									

- 備考・○、( )、[ ]、〈 〉、□は1科目選択。
- ・ 共通教科選択者は★を選択し、専門教科選択者は☆を選択する。ただし、3年次□の「フードデザイン」については、共通教科選択者、専門教科選択者に関係なく選択することができる。
  - ・ 総合実習は、1年次は土木・林業。2年次は土木コース（測量）、林業コース（造園技術・林産物利用）の2パート。
  - ・ 総合実習の各学年1単位は時間割外総合実習で長期休業中に実施する。内容は時間割内総合実習に準ずる。
  - ・ 科目「社会と情報」2単位は1年次の「農業情報処理」2単位で代替する。
  - ・ 「総合的な学習の時間」3単位のうち、2単位を「課題研究」で代替する。

伊万里商業高校（商業科、情報処理科）

平成28年度実施教育課程表（平成28年度入学 第1学年）

佐賀県立伊万里商業高等学校（全日制）

教科・科目		学 科		商 業 科				情 報 処 理 科			
		標準単位		1年	2年	3年	履修単位の計	1年	2年	3年	履修単位の計
各学科に共通する各教科	国語	国語総合	4	4			4	4			4
		国語表現	3			□3	0,3			□3	0,3
		現代文B	4		3	2	5		3	2	5
	地理歴史	世界史A	2		2		2		2		2
		日本史A	2			△2	0,2			△2	0,2
		地理	2			△2	0,2			△2	0,2
	公民	現代社会	2	2			2	2			2
	数学	数学I	3	2	2		4	2	2		4
		数学A	2			2	2			2	2
		数学活用	2			□3	0,3			□3	0,3
	理科	科学と人間生活	2	2			2	2			2
		生物基礎	2		2		2		2		2
	保健体育	体育	7~8	2	2	3	7	2	2	3	7
		保健	2	1	1		2	1	1		2
	芸術	書道I	2	2			2	2			2
	外国語	コミュニケーション英語I	3	3			3	3			3
		コミュニケーション英語II	4		3	3	6		3	3	6
	家庭情報	家庭総合	4		2	2	4		2	2	4
	情報	社会と情報	2								
	共通教科小計				18	17	14,17	49,52	18	17	14,17
主として専門学科において開設される各教科	商業	ビジネス基礎	2~4	2			2	2			2
		課題研究	2~6			3	3			3	3
		総合実践	2~6			3	3				
		マーケティング	2~4		○3		0,3				
		ビジネス経済	2~4			3	3			□3	0,3
		経済活動と法	2~4			□3	0,3			□3	0,3
		簿記	2~5	6			6	3			3
		財務会計I	2~4		○4,●5		4,5		4		4
		原価計算	2~4		○3,●5		3,5			3	3
		情報処理	2~4	3	2		5	6			6
		ビジネス情報	2~4			3	3		3		3
		電子商取引	2~4			□3	0,3			2	2
プログラミング	2~4						5		5		
ビジネス情報管理	2~5							4	4		
専門教科小計				11	12	12,15	35,38	11	12	12,15	35,38
総合的な学習の時間											
履修単位の計				29	29	29	87	29	29	29	87
特別活動	ホームルーム活動(週あたりの時間数)			1	1	1	3	1	1	1	3
	生徒会活動			別途計画							
	学校行事										

△、□、は、それぞれ1つを選択

●、○ は、どちらかをまとめて選択

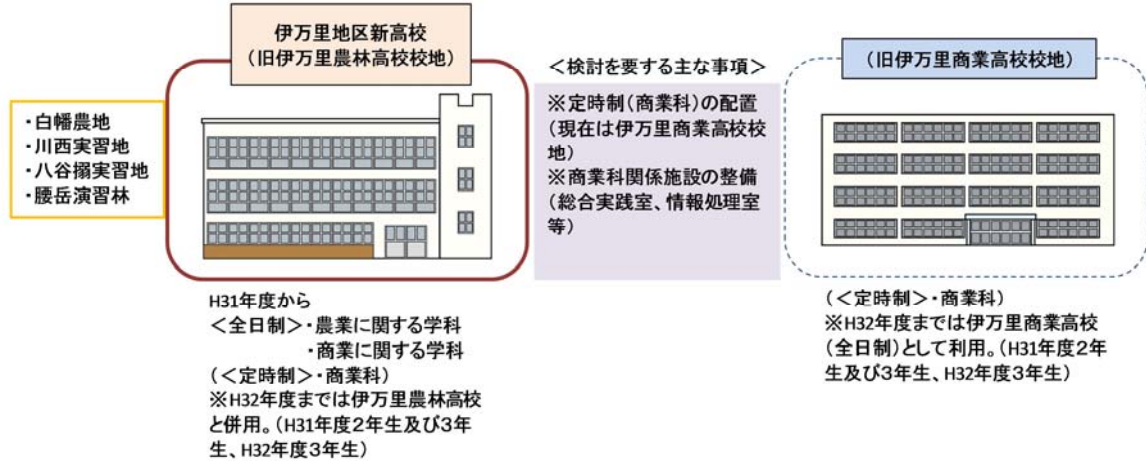
「総合的な学習の時間」は課題研究3単位で代替

情報の「社会と情報」は、1年次の情報処理で代替

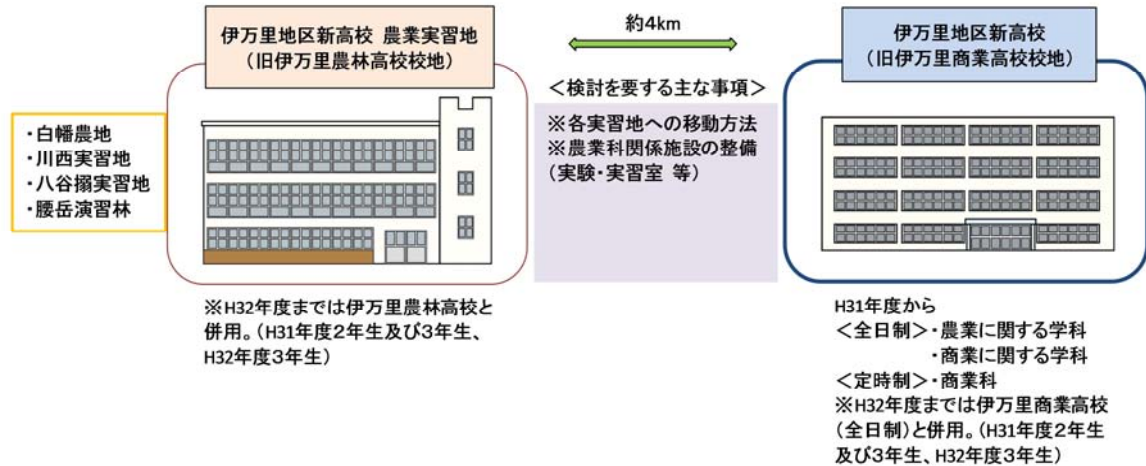
## 新高校の校地について

## 1 伊万里地区新高校の校地に係るパターンイメージ

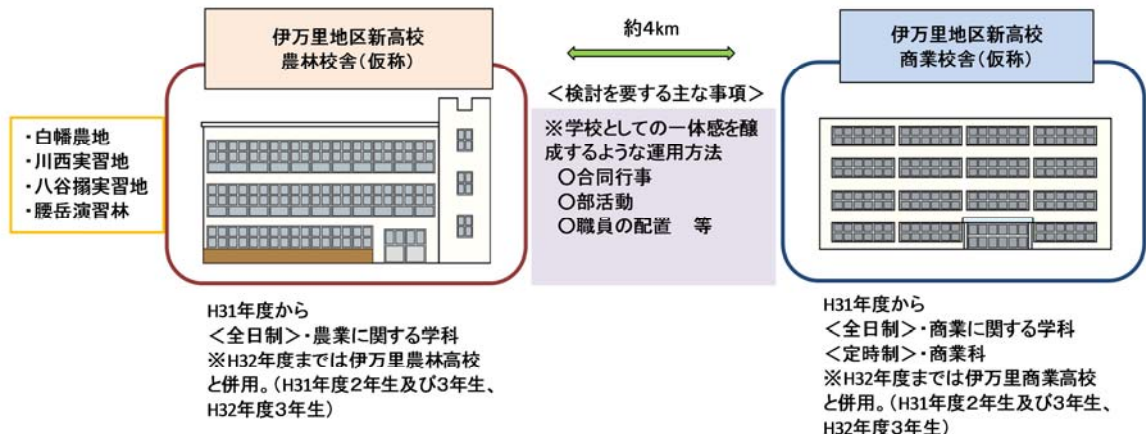
## (1) 現在の伊万里農林高校を校地とした場合



## (2) 現在の伊万里商業高校を校地とした場合



## (3) 校舎制とした場合



## 2 校舎制とした場合に検討を要する主な事項

### 学習活動面

- ・ 例えば総合選択制のように生徒が学科を越えて科目を履修できるような形とした場合、生徒の学習面での選択肢は増えるが、生徒、教員の校舎間の移動が伴う。

### 行事面

- ・ 合同行事の精選（時期、場所、運営方法）
- ・ 合同行事として想定できるもの  
入学式、卒業式、文化祭、体育祭、修学旅行、1年次宿泊研修、高校総体壮行会、芸術鑑賞会、クラスマッチ等
- ・ 生徒、保護者の移動手段  
合同行事の際は現地集合とするのか、または移動のためのバスを手配するのか。

### 部活動面

- ・ 既存の部活動を基本とし、設置する部とその活動場所、顧問の配置について検討する。
- ・ 週内で合同練習の日、各校舎練習（パート練習、個人トレーニング等）の日に分けるなど、効率良く練習ができるように工夫する。
- ・ 校舎間の移動手段について検討する。  
行事面と同様にどのような移動手段とするのか。

### 職員に係るもの

- ・ 職員の校舎間兼務の取り扱い。
- ・ 職員会議などの各種会議や各種研修の在り方。
- ・ 各種委員会に係る職員配置。
- ・ 校務分掌に係る職員配置。
- ・ 校務分掌に係る各種規程（教務内規、生徒指導や進路指導に係る校内規程等）の摺合せ。 等

### 学校事務に係るもの

- ・ 文書を両校舎で共有するためのシステム作り。 等

参考資料

1 校舎制の事例

各地図は google マップによる

熊本県立阿蘇中央高等学校

(1) 沿革

H22.4 阿蘇高等学校(普通科、商業科)と阿蘇清峰高等学校(生物科学科、林業・農業土木科、社会福祉科)が統合。

各校舎の位置 【校舎間の距離約 3.1 km】



(2) 学科と募集定員

【計 280 人 7 学級 / 学年】

校舎	学科	H28 募集定員(人)
阿蘇校舎(旧阿蘇高校)	普通科	120
	総合ビジネス科	40
阿蘇清峰校舎(旧阿蘇清峰高校)	農業食品科	40
	グリーン環境科	40
	社会福祉科	40

(3) 校舎制の状況 (H27.6.15 に学校訪問)

- ・ 副校長が阿蘇清峰校舎に、教頭が阿蘇校舎に常駐し、校長は月・水・金は阿蘇清峰校舎、火・木は阿蘇校舎に常駐している。
- ・ 各学科が複数の類型を持ち、なおかつ総合選択制を実施しているため、選択科目等の関係でカリキュラムは複雑化する。
- ・ 生徒の移動を伴うのは、授業(総合選択制)、合同行事、部活動等である。
- ・ 入学式、卒業式の際は、保護者用のバスも準備する。
- ・ 部活動のための移動は、生徒各自で行う。ほとんどの生徒が 30 分程度をかけて徒歩で移動している。移動ルートのほぼすべてに歩道が設置されている。特に交通指導等はしていない。
- ・ 合同で行っている行事は、各式典(入学式・卒業式・始業式・終業式・対面式)、宿泊研修(1 年次)、体育祭・文化祭、農業体験(田植え・稲刈り・収穫感謝祭)、修学旅行、芸術鑑賞会、ロードレース大会、クラスマッチ(年 1 回)。
- ・ 式典関係はすべて阿蘇校舎で行う(阿蘇清峰校舎の生徒が移動)。

(1) 沿革

H23.4 落合高等学校（普通科、看護科、専攻科）と久世高等学校（生産生物科、食品科学科）が統合。

各校地の位置 【校地間の距離約 6.4 km】



(2) 学科と募集定員

【計 210 人 5 学級 / 学年】

校地（校舎）	学科	H28 募集定員（人）
落合校地（旧落合高校）	普通科	80
	看護科	40
久世校地（旧久世高校）	生物生産科	35
	食品科学科	35

(3) 校舎制の状況（H27.11.19 に学校訪問）

- ・ 校長は月水木が落合校地、火金が久世校地での勤務。
- ・ 両校地で同じ制服を採用している。
- ・ 合同の行事は、入学式（落合校地）、卒業式（落合校地）、芸術鑑賞会（3年に1度）、学年交流会（各学年で行う）。＜各行事とも大型バスで移動＞
- ・ 授業での生徒の移動はなし。
- ・ 部活動に伴う生徒の移動は、中型バス（スクールバス）で週に2日間（月金）のみ送迎。
- ・ 両校舎を兼務しているのは理科、芸術の教諭。
- ・ 部活動の大会等は合同チームで出場。活動が活性化している。
- ・ 生徒指導面等の摺合せが難しい。年度当初の合同職員会議で申し合わせ事項を確認している。

(1) 沿革

H27.4 北佐久農業高等学校（栽培システム科、生物サイエンス科、食品サービス科）、臼田高等学校（普通科、グリーンライフ科、デザイン科）、岩村田高等学校工業科（機械科、電子機械科、電気科）が統合。

(2) 学科と募集定員

【計 280 人 7 学級 / 学年】

キャンパス（校舎）	学科	学級数	H28 募集定員（人）
浅間キャンパス（旧北佐久農業高校）	農業科	食品マネジメント科	120 人 （くくり募集）
		生物サービス科	
		食農クリエイト科	
	工業科	機械システム科	1 学級
電気情報科		1 学級	40 人
臼田キャンパス（旧臼田高校）	創造実践科（総合学科）	2 学級	80 人

各キャンパスの位置 【キャンパス間の距離約 9.6 km】



(3) 校舎制の状況 (H27.12.2 に学校訪問)

- ・ 一つの高校としての一体感を醸成していくことには配慮している。そのために、そのキャンパス、その学科でしかできないことと共同でできることの線引きをどこで行っていけばいいのかを現在模索中である。例えばキャンパス間ウォーク(両キャンパスを折り返して歩く)やクラスマッチ(各学年でどちらかのキャンパスに集まって行う)という行事は合同でやるが、文化祭はキャンパス別に行うということである。文化祭の別開催は「地域に開かれた学校」ということを考えた場合、1つのキャンパスのみの開催はできないだろうという発想である。
- ・ 1つのキャンパスで一斉に開催する行事については現地集合である。
- ・ 入学式、卒業式は浅間キャンパスで行っている(卒業式は予定)。
- ・ 生徒の授業でのキャンパス間移動はない。
- ・ 両キャンパスの兼務者は理科助手、音楽、美術、書道、農業の5人である。校務分掌がある方を本所属のキャンパスとしている。
- ・ 授業であれば産振用のマイクロバスを利用できる。通学用のバスはない。
- ・ 部活動について、巡回バス用の予算はない。平日は週2回(火、金)にPTAが持つマイクロバスを運行している。
- ・ 生徒指導面等での摺合せが難しい。
- ・ 求人(就職)と指定校(進学)については、1校扱いのため、両キャンパスで共有している。



(1) 沿革

H21.4 名寄光凌高等学校（普通科、電子機械科、建築システム科、生活文化科）名寄農業高等学校（酪農科、生産科学科）が統合。

各キャンパスの位置【キャンパス間の距離約 3 km】



(2) 学科と募集定員

【計 160 人 4 学級 / 学年】

キャンパス（校舎）	学科	H28 募集定員（人）
光凌キャンパス （旧名寄光凌高校）	電子機械科	40
	建築システム科	40
	生活文化科	40
名農キャンパス （旧名寄農業高校）	酪農科学科	40

キャンパス制（校舎制）ではあるが、生徒は光凌キャンパスを拠点としている。

(3) 校舎制の状況（同校ホームページより）

本校は「名寄光凌高校」と「名寄農業高校」が統合し新しく「名寄産業高校」となりました。酪農科学科は農業を学ぶため、名寄農業高校の校舎と農場を現在も使用しています。このことにより、本校は「光凌キャンパス」と「名農キャンパス」の2つのキャンパスを持つ北海道で初めての高校となったのです。

2つのキャンパスは3 km程度離れており、酪農科学科の授業時には名農キャンパスに主にバスで移動しています。自転車や徒歩でもそれほど遠くない距離にあるため、部活動では2つの校舎（グラウンド・テニスコート等）を活用し、普通の学校よりも時間と場所に恵まれた環境が整っています。

光凌キャンパス

名寄市の北部に位置し、名寄産業高校の本校となっている校舎です。4つの学科がこの校舎で学んでいます。電子機械科、建築システム科、生活文化科の専門の講義棟が設置されており、それぞれ専門科目の授業を行っています。酪農科学科は普通科目の授業やホームルーム活動、朝と帰りのSHRは主にこの校舎で他学科と同じように過ごしています。多くの設備が整った充実したキャンパスです。



名農キャンパス

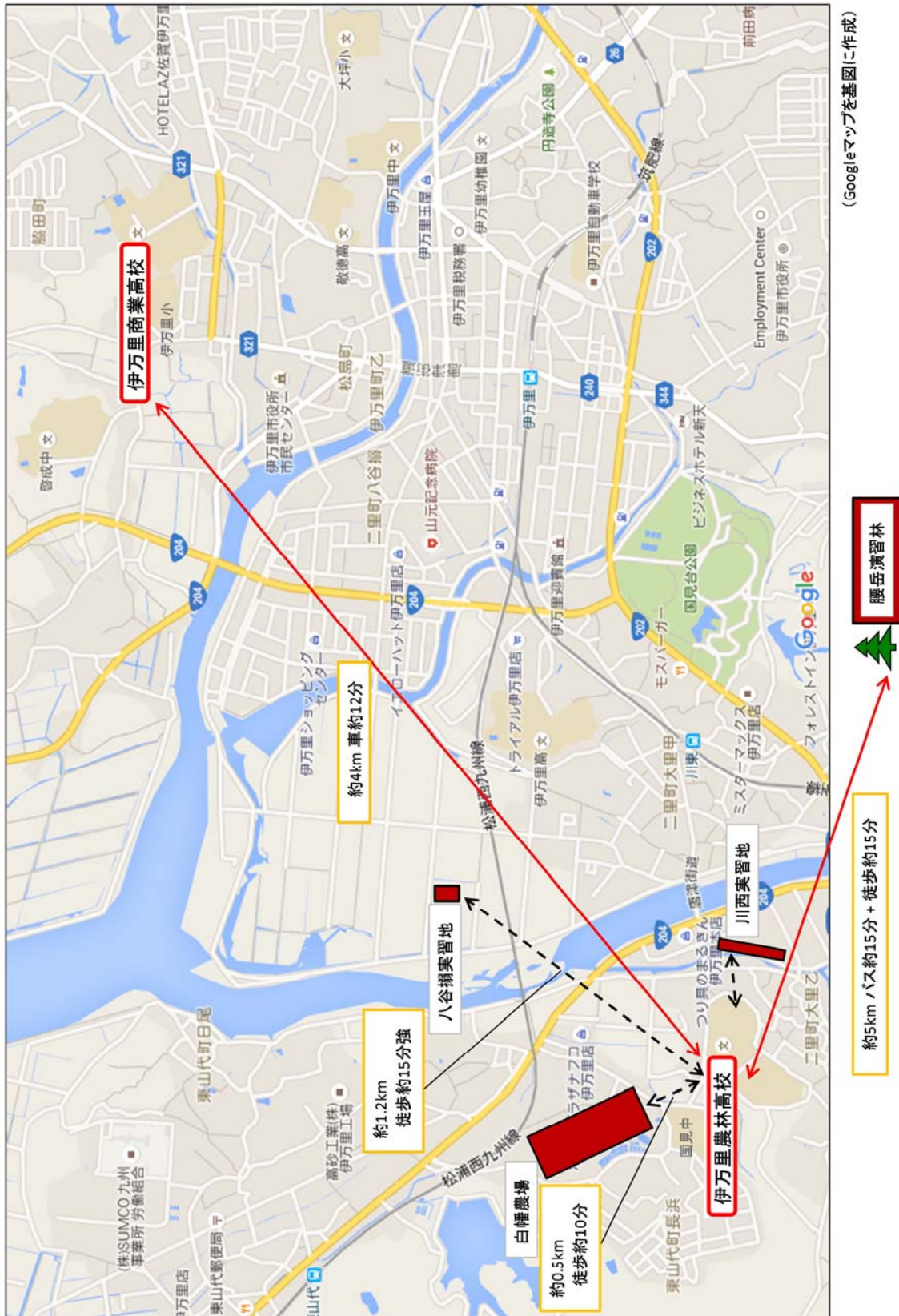
名寄市の東に位置し、旧名寄農業高校だった校舎です。主に酪農科学科はこの校舎と農場で専門科目の授業を行います。本校の農場は北海道の農業科のある高校ではトップクラスの耕地面積と、充実した機械・施設があります。畜産はもちろん、畑作・水稲・野菜・草花など、栽培系も充実しています。また、体育館や柔剣道場、グラウンドは部活動で活用されています。



参考資料

1 校地の現況

<現在の両高校の位置と伊万里農林高校の実習地>

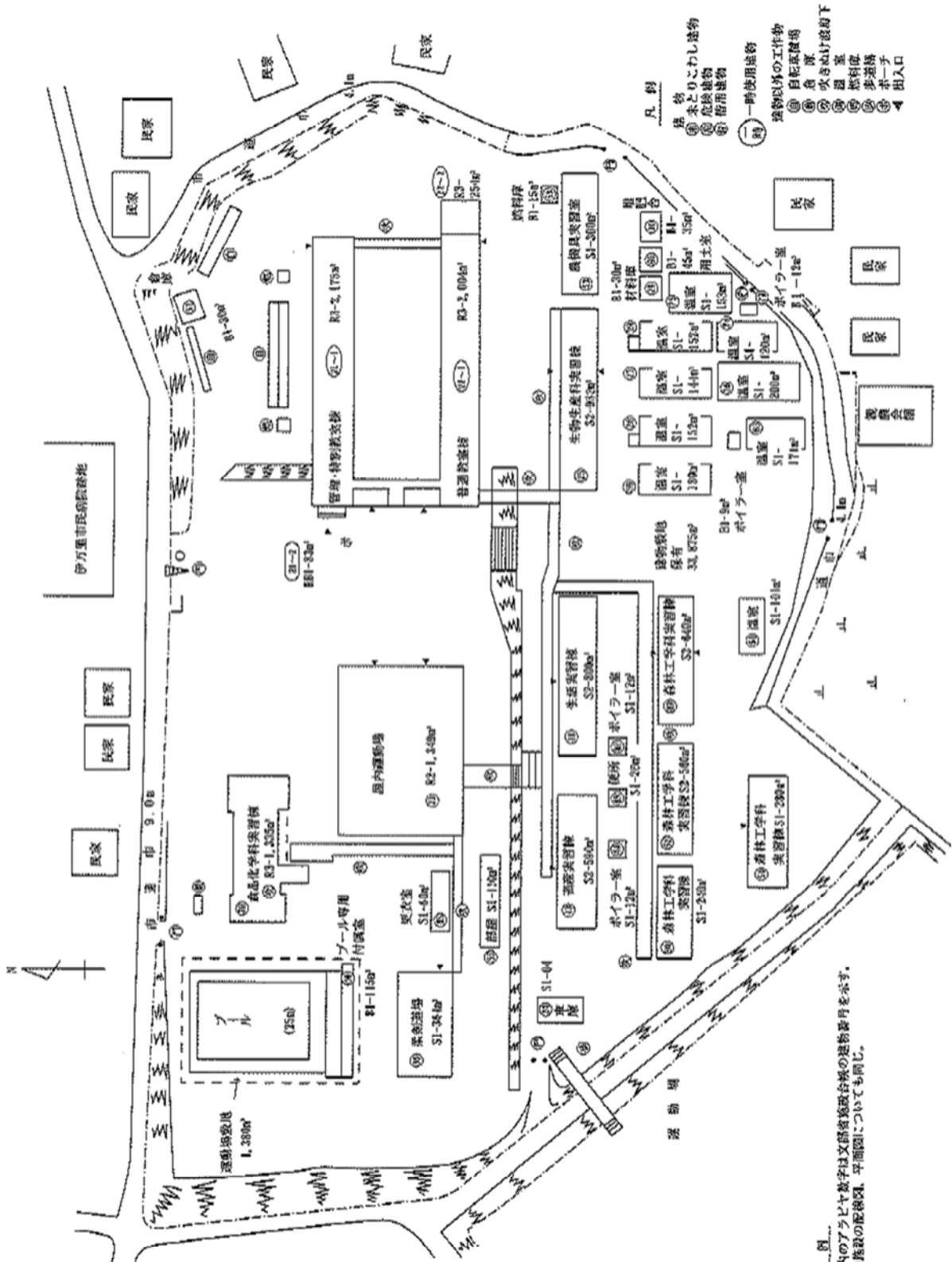


(Googleマップを基図に作成)

<両校の現況>

伊万里農林高校

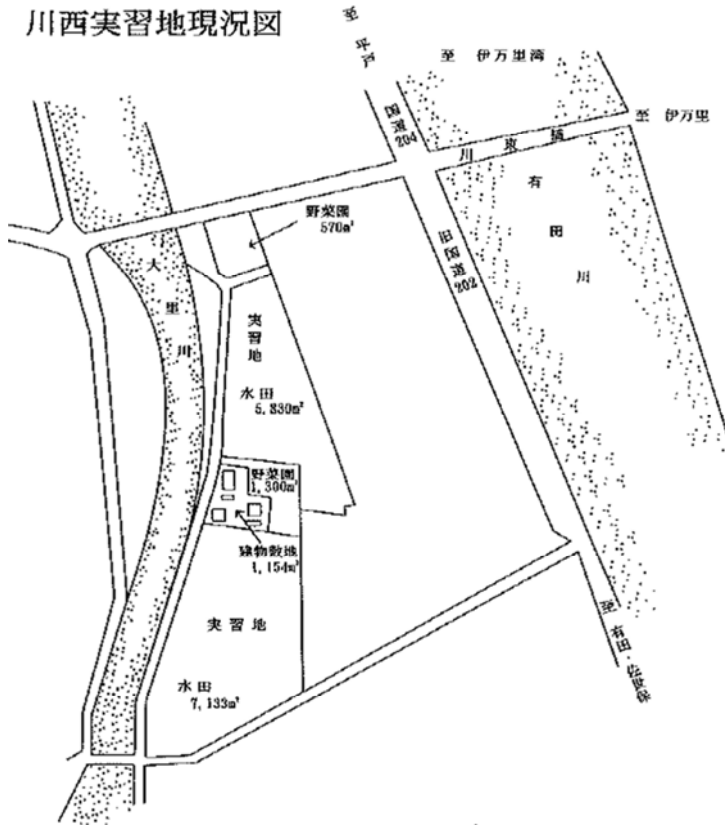
校舎配置



凡 例  
 1. 〇内のアラビア数字は文部省施設台帳の建物番号を示す。  
 2. 他の施設の配線図、平面図についても同じ。

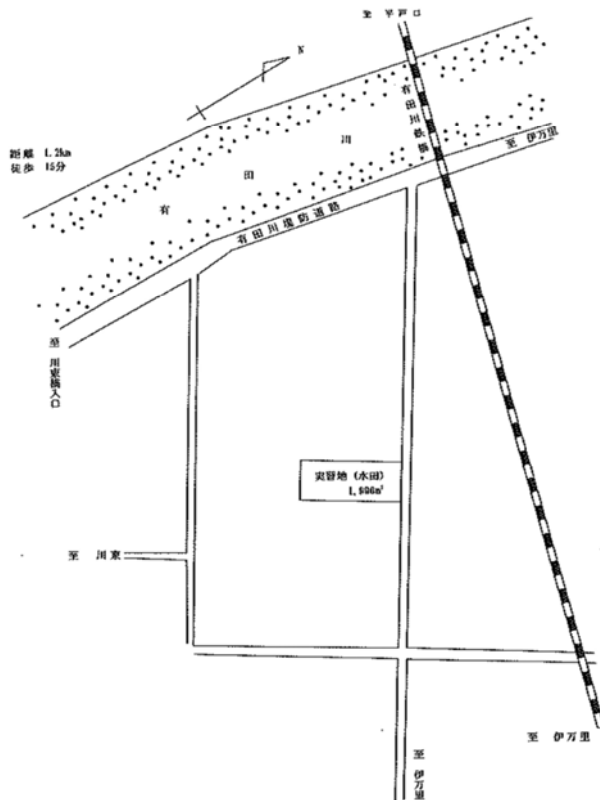
川西実習地

川西実習地現況図



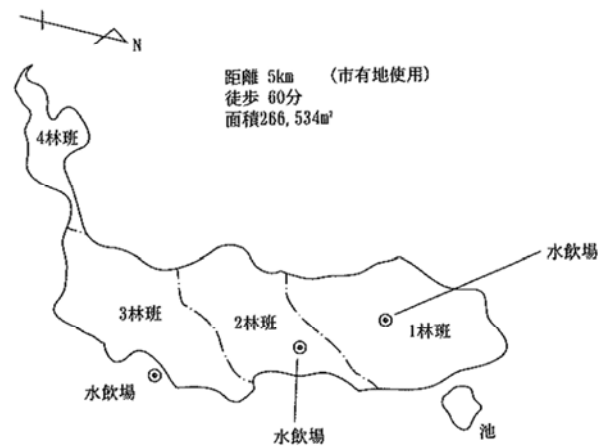
八谷搦実習地

八谷搦実習地現況図

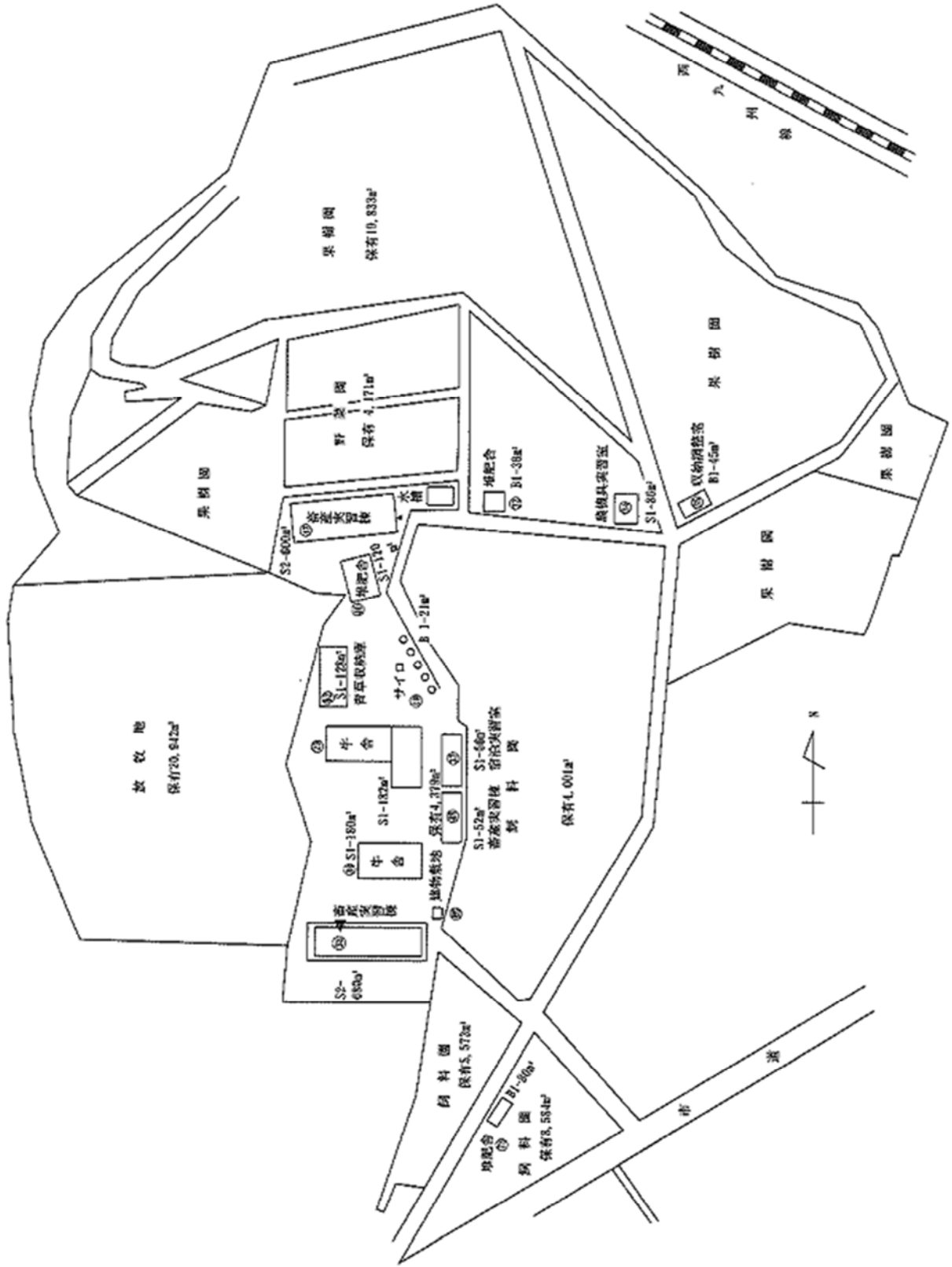


腰岳演習林

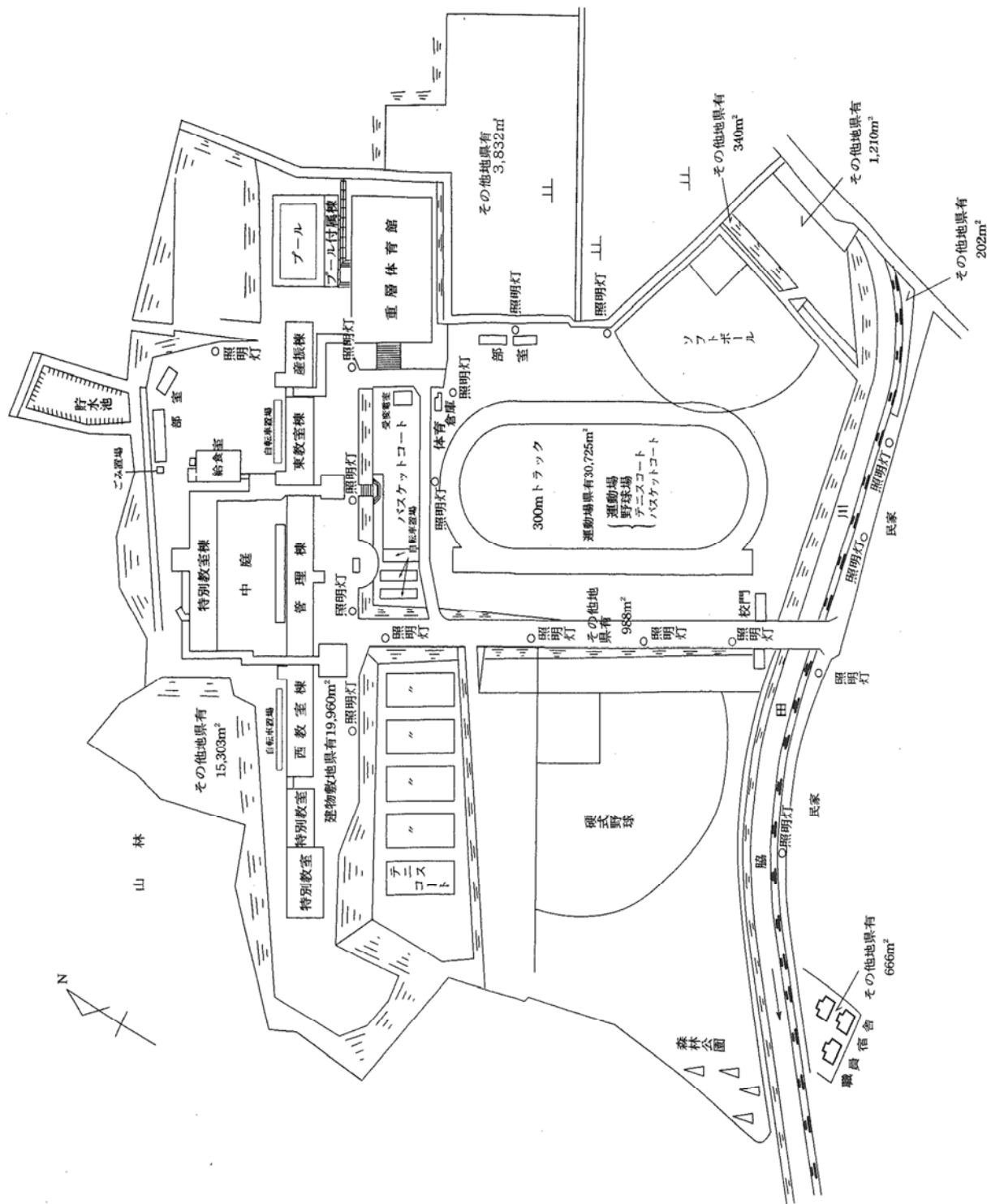
腰岳演習林等詳細図



# 白幡農場



伊万里商業高校



## 新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日  
佐賀県教育委員会教育長決定  
一部改正 平成17年4月 1日  
一部改正 平成18年7月12日  
一部改正 平成21年4月 1日  
一部改正 平成27年4月 1日

## (設置)

- 第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。
- 2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

## (所掌事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。
- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関する事
  - 二 新高校の施設・設備に関する事
  - 三 新高校への円滑な移行に関する事
  - 四 前号に掲げるもののほか、検討を要する事

## (組織)

- 第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。
- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
- 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

## (会議)

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

## (事務局)

- 第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

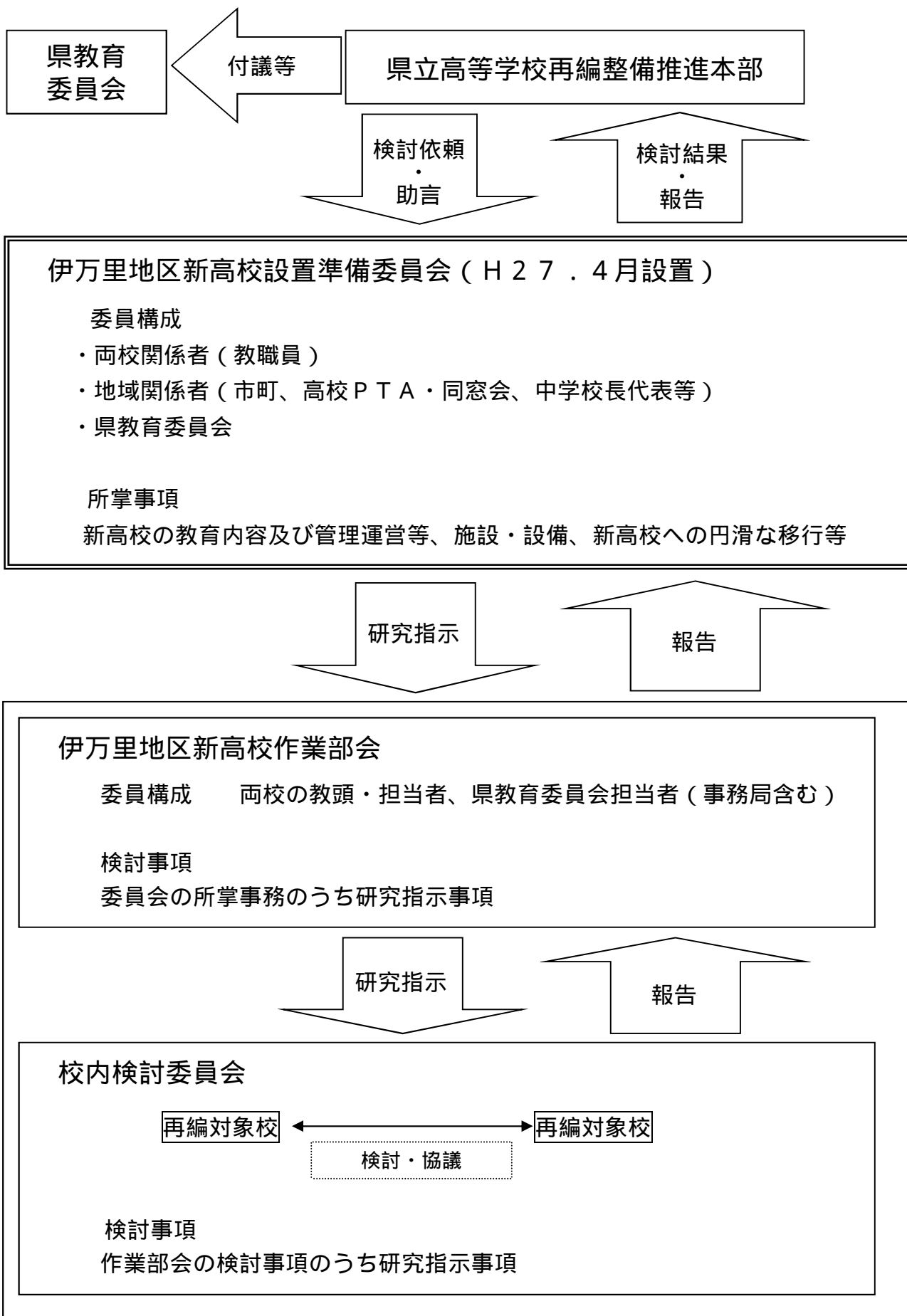
## (補足)

- 第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

別表（第1条関係）

委 員 会 名	再 編 等 対 象 校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校





資料6 伊万里地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考
1	伊万里商業高等学校 校長	熊谷 正実	委員長・学校関係者
2	伊万里農林高等学校 校長	青木 久生	副委員長・学校関係者
3	伊万里商業高等学校 教頭	大川内弘紀	学校関係者
4	伊万里農林高等学校 教頭	松本 英裕	
5	伊万里市教育長	森 哲也	伊万里市関係者
6	伊万里市政策経営部長	佐藤 弘康	
7	伊万里商業高等学校 同窓会代表	森 日出生	地元関係者
8	伊万里農林高等学校 同窓会代表	岩永 康則	
9	伊万里商業高等学校 P T A代表	中尾 啓司	
10	伊万里農林高等学校 P T A代表	金子 直幸	
11	伊万里市立東陵中学校長	坂本 浩幸	中学校関係者
12	教育総務課長	源五郎丸 靖	県教委関係者
13	教育振興課長	五反田 進	
14	教育情報課長	碓 浩一	
15	教職員課長	福地 昌平	
16	学校教育課長	松尾 敏実	
17	保健体育課長	吉松 幸宏	
18	県立高校再編整備推進室 室長	原 和弘	
19	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰	
事務局	伊万里商業高等学校教諭	坂口 哲也	
	伊万里農林高等学校教諭	木村 紀元	
	県立高校再編整備推進室 企画主幹	山下 秀司	
	県立高校再編整備推進室 企画主査	杉本 耕一郎	